

光町50年の

あいさつ

光町長 齊藤 謙

光町は、昭和29年5月3日に旧4ヶ村（日吉村・南条村・東陽村・白浜村）の合併により、町制を施行して以来、本年をもって記念すべき50周年を迎えることになりました。

この間、我が光町は、町民の愛町精神に支えられ、農業を基幹産業とする「活力ある文化環境都市」へと着実な発展を遂げて参りました。「まちづくりは人づくり」を町是として、中学校校舎や図書館を始めとする文化・教育施設整備を積極的に進め、大きな成果を挙げ、また、町の基幹産業である農業は、特産品の「ひかりねぎ」が全国的なブランドとして農業所得の向上に大きな貢献をしております。更に、福祉分野についても、特別養護老人ホームの誘致、在宅介護福祉サービス向上への取組など着実にその事業成果を挙げて参りました。特に平成17年度

に供用開始予定の銚子連絡道路・(仮称)光インターチェンジの事業化は、駅のない光町にとって利便性の向上と地場産業の活性化が大いに期待されるところであります。今日このような発展を遂げることができましたのも、偏に、先人・先輩の皆様が、戦後復興の疲弊・荒廃の中にあつて、「和の政治」を基本理念とし、町の均衡ある発展と町民の福祉の向上に不断の努力を積み重ねてこられた結果に他なりません。この恩恵に対して心から敬意を表し深く感謝申し上げます。

地方分権時代を迎え、市町村は住民生活に密着した事柄について、自らの権限と責任においてまちづくりを進める自立した自治体への方向転換が強く求められています。自治体に限らず社会経済機構そのものの有りようも変えざるを得ない一大転換期を迎えていると言っても過言ではありません。今こそ、私たちは町民の英知と総力を結集し、ふ

るさと光町の新たな旅立ちのため、地方自治の原点である住民自治に立ち返り、目前に迫った市町村合併を成し遂げ、後世に誇れる「ふるさと都市」の立ち上げに最大限の努力をする必要があります。

私は、先輩諸兄が幾度の難関を乗り越え、光町建設に心血を注いだ思いを、今一度強く胸に刻み、真に住んで良かったと思える「ふるさと都市」の建設に不退転の決意をもって取り組んで参りますので、関係各位並びに町民の皆様のご指導・ご鞭撻を心からお願ひ申し上げます。



〇消防防災功勞

消防団長

深田 正一(虫生)

〇防犯功勞

防犯協会会長

大木 正(谷中)

〇交通安全功勞

元交通安全協会会長

吉田二三男(長塚)

前交通安全協会会長

向後 眞一(作間内)

交通安全協会副会長

鈴木 敏司(小川台)

交通安全協会副会長

大木 武士(西高野)

交通安全指導員

前交通安全協会副会長

小川 淳一(辻)

〇篤志寄付

教育振興のための寄付金

光ライオンズクラブ

身体障害者のための寄付金

故 神谷 春(篠原)

子育て支援のための寄付金

山崎 確(橋場)

教育振興のための寄付金

(株)畔蒜工務店(木戸)

絵画の寄付

越川 福子(宮内)

〇特別功勞

ひかりねぎの産地化

山田 喜一(小川台)

ひかりねぎの産地化

山崎 文武(台)